■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る　ボイスドラマ　鼓編

鼓「んっ、んんんんんっ……！！」

鼓「はっ……はぁ……ん、はぁっ……また、こんなにたくさん……」

鼓「子宮の奥まで、恵さんの精液でいっぱいです……たぷたぷになるまで、満たされて……」

鼓「そう、ですね……今日だけで、３回も……中出ししてもらいました」

鼓「恵さんには、昨日から絶え間なく中出しセックスをしてもらっていますけど……」

鼓「中に注がれたままで、何度も何度も恵さんのおちんちんにかき回されているので……おまんこに、精液を擦り込まれている気分です……」

鼓「襞の隙間まで、あますところなく精液が染み込んでる感じがして……これが、オスとしての本能というものなのでしょうか……」

鼓「それを受けて、私の身体も悦んでいるのが分かるんです……やっぱり私、エッチ、ですよね……」

鼓「あ……ごめんなさい、気付くのが遅くて……今、お口でお掃除しますね」

鼓「精液と、私の愛液でベトベトになってる恵さんのおちんちん……れろ、ちゅぷっ……」

鼓「灯ちゃんが帰ってくる前に、キレイにしないと……はむ、んちゅぷっ……ちゅるっ、ぺろっ……」

鼓「……え？　意外って、なにがですか？」

鼓「私が、エッチなこと……ですか？　それは……ん、ちゅるっ……」

鼓「確かに、クラスの人たちからは……れろ、ちゅぷっ……優等生だとか……んちゅっ……真面目で大人しい子だって、よく言われます……」

鼓「でも……だからって、エッチなことに興味がないわけじゃないんですよ……？」

鼓「私の場合は、その……ん、はむっ……人より興味が……あと、性欲も強すぎるのかもしれませんけど……れろれろっ……」

鼓「……実は、男の人と一緒に住むって決まった時から……ずっと、妄想しちゃってたんです」

鼓「年頃の男の子だから、きっと性欲もスゴいのかな、とか……下着とか、勝手にオカズにされちゃったりするのかな、とか……」

鼓「強引に、エッチなことされちゃったりするのかな……とかって……そういう事考えて、一人でしちゃったりしてました」

鼓「そしたら、本当にエッチな関係を持つことになって……主に、積極的だった灯ちゃんのお陰ですけど……」

鼓「覚えてますよね……？　この前の朝、灯ちゃんと私でおちんちんを舐めさせてもらった時のこと……」

鼓「私……あの時のキスの感触と、おちんちんの舌触りを思い出して……ほぼ毎晩、オナニーしてんたんです……」

鼓「恵さんのおちんちんが、私のおまんこに入ってきたらどのくらい気持ちいいのかなって……」

鼓「寝る前に、その事ばかり考えて……自分の指を恵さんのおちんちんに見立てて、くちゅくちゅって……」

鼓「でも、あれから恵さんはずっと灯ちゃんに夢中でしたから……だから、二人は付き合ってるのかなって……そう、思ってたんですけど……」

鼓「でも、恋人じゃないって聞いて……それなら、私とエッチしても大丈夫かなって……」

鼓「あ、すみません……口よりも舌を動かさないと……ですよね。はむ、んちゅぅっ……ちゅっちゅ、れろんっ……」

鼓「ん、ちゅぷっ……れろっ、じゅぷるっ……はぁ……ん、ちゅるっ……精液の味……ずっと、興味があったんです……」

鼓「ちょっと苦くて、喉に絡んで……なんだか、舌がぴりぴりします……」

//後半小声でお願いします。

鼓「でも、嫌いじゃないかもしれません……恵さんの精液だから……」

鼓「ん、ちゅるっ……ぺろぺろぺろっ……隅々まで、舐めとらないとダメですよね……んちゅ、れろんっ」

鼓「根元から、先っぽまで……ん、ちゅるんっ……裏側も、カリのところも……全部……ちろちろ、ちゅぱっ……」

鼓「……え？　舐め方がいやらしすぎる……ですか？」

鼓「で、でも……これは、あくまでお掃除です……ちゅっ、ちゅるっ……お口を使って、恵さんのおちんちんをキレイにしてるだけ、です……」

鼓「興奮させて、おちんちんを膨らませようとしてる、なんて……そんなこと、ないですよ……？　ん、れろれろっ……」

鼓「ん、ちゅるぅっ……！　ちゅぷっ、れろっ、ちゅぷんっ……はっ、はぁ……はぁ……んっ、ふぁ……」

鼓「……恵さんのおちんちん……また、元気になっちゃいましたね……」

鼓「これ……灯ちゃんが帰ってくる前に、静めておいた方がいいですよね……？」

鼓「はい……本土からの船が着くまで、あと２０分くらいあります……」

鼓「だから、最後に……このおまんこに、もう一回だけ中出ししておきませんか……？」

鼓「灯ちゃんが帰ってきたら、恵さんはまた灯ちゃんのものになってしまうと思うので……」

鼓「せめて、今だけは……私の身体を満たして欲しいんです……ダメ、ですか……？」

鼓「あっ……」

鼓「ん、んんっ……！　んぁっ、あっ、あぁあああああっ……！！」

鼓「はっ、はぁっ……嬉しいっ……恵さんのおちんちんが、私を求めてくれてるっ……」

鼓「やっ、はぁっ……んっ、はいっ……もう、すっかり慣れましたっ……」

鼓「初めて、おちんちんを入れてもらった時はっ……ズキって、痛みもあったんですけど……」

鼓「今は、ただただ気持ち良くてっ……もう、頭の中がセックスのことでいっぱいです……」

鼓「はっ、あっ、あぁっ……！　んっ、ひぁっ、あぁっ……！」

鼓「はぁっ……恵さんの、熱くて硬いモノがっ……お腹の奥まで入ってきてますっ……あっ、あっ……」

鼓「恵さんの、おちんちんの形っ……私のおまんこが、すっかり覚えてしまって……はぁっ……あっ……」

鼓「んんっ……！　おちんちんが、入ってないとっ……満足できない身体に、されちゃいましたっ……」

鼓「……そんな、大げさなんかじゃないですっ……本当に、おちんちんの虜になってしまったんです……」

鼓「許されるなら、このままっ……恵さんのおちんちんと、永遠にだってつながっていたいんですから……」

鼓「でも、これ以上したら私……恵さんのおちんちんのことしか、考えられなくなっちゃいそうで……」

鼓「みんなで食事してる時も、授業中もっ……おちんちんがおまんこに入ってないと、耐えられない女の子になっちゃいそうなんですっ……」

鼓「だから、これで最後っ……じゃないと本当に、おちんぽ狂いになってしまいますっ……！　だからぁっ……あぁあっ！」

鼓「あっ、はぁっ……腰、勝手に動いちゃうっ……！　んっ、んんっ……！はぁっ、あっ、んぁっ……！」

鼓「恵、さんっ……お願いです、キスしながら、セックスしたいですっ……」

鼓「ん、ちゅぶっ……れろっ、んっ、んんっ……！」

鼓「んっ、ぷはぁっ……！　んちゅっ、ちゅる、れろれろっ……」

鼓「んはぁ……これ、好きですっ……好きぃっ……ベロチューしながら、せっくしゅぅ……んんっ！」

鼓「頭もおまんこも、蕩けちゃいまふぅっ……んちゅっ、ちゅぷっ、ちゅっちゅっちゅ……」

鼓「んんっ、はっ、あぁっ……精液とか、愛液だけじゃなくって……涎まで、恵さんと交換しちゃってるっ……」

鼓「こんな、こんなエッチなキスっ……まるで、上も下もセックスしてるみたいでっ……んんっ、ちゅむっ……ちゅっちゅ……」

鼓「はあぁああっ……！　そ、そこ、気持ちいいですっ……今、おちんちんがごりって擦れたところっ……」

鼓「あっ、んぁああっ……そこっ、そこですっ……先っぽの出っ張ってるとこ、引っかかってますぅっ……」

鼓「んっ、んんっ……！　恵さんのおちんちんに、敏感なところがあるように……」

鼓「おまんこにも、感じやすい場所とか……あるんですね……私、またひとつエッチになっちゃいました……」

鼓「あっ……もっと、探してくださいっ……残された時間の中で、感じやすいところっ……ん、あぁっ……！」

鼓「私の、おまんこの弱点を……恵さんのおちんちんに、見つけてほしいです……ひぁあっ……！」

鼓「んぁあああっ！　そこっ、そこもっ……いいですっ、おまんことろけちゃいそうですっ……」

鼓「あっ、あぁっ……また、腰が勝手に動いてっ……気持ちいいとこが擦れるように、おまんこの位置ずらしてるっ……」

鼓「はっ、はぁっ……身体が求めてっ……本気のセックスしちゃってるんですねっ……あぁっ……！」

鼓「恵さんの種で、おまんこが孕みたがってるんですっ……もう私、真面目な優等生なんかじゃなくって……メスになっちゃってるっ……」

鼓「性欲と本能に従って、おまんこがぱかって開いちゃってるのが、自分でも分かるんですっ……だから――」

鼓「んんんんんんっ！！？」

鼓「い、今っ……子宮、こつこつって……！　はっ、あぁあああっ！」

鼓「赤ちゃんのお部屋が、おちんちんにノックされてますっ……これっ、気持ちいいっ……！」

鼓「おちんちんの先っぽと、子宮の入り口がいっぱいキスしてますっ……ちゅっちゅってされてっ……あっ、あぁっ！」

鼓「はぁっ……！　ん、あぁっ……やっ、そんなっ、子宮ばっかりっ……あっ、あぁっ！　はぁああっ！」

鼓「そんなにされたら、子宮が降りてきちゃいますっ……私の子宮が、おちんちん迎えにいっちゃうっ……！」

鼓「んんんんっ！！　あぁっ、はっ、あぁあっ！　おっ、おちんちんのっ、ビクビクが激しくっ……くぅううっ！」

鼓「射精の準備、してくれてるんですよねっ……またっ、私の淫乱なおまんこにドピュドピュって、いっぱいっ……！」

鼓「はいっ、中でっ……中で大丈夫ですっ……！　出してくださいっ、灯ちゃんが帰ってくる前に、最後に中出しっ……！」

鼓「恵さんの子種を、私の身体に染み込ませてくださいっ……！　はっ、あっ、あぁああっ！！」

鼓「んんんんっ！！　はっ、あぁっ！　んぁっ！　あっ、あぁああっ！！　やっ、イくっ、イッちゃうっ！　私もイきますっ！！」

鼓「おまんこ中出しっ、中出ししてくださいっ！　大丈夫な日でも妊娠しちゃうくらい、熱くて濃いのを、いっぱいっ――」

//射精

鼓「んぁあああっ！！　あっ、あぁあああっ！　ひぁあああああああああああああっ！！！」

鼓「あぁあああああああああっ！！　あっ、んっ、あぁっ……！」

鼓「きてるっ、きてるぅっ……！　おちんちんが、ドピュドピュしてくれてるっ……！」

鼓「あっ、あぁああっ！　だっ、出しながら、動かれるとっ……子宮の一番奥まで、精液が押しこまれてっ……んんっ……！」

鼓「はっ……はぁ……はっ、はぁ……ん、ふぁ……」

鼓「はぁ……はい……これで、４回目……です……中出し……種付け、セックスぅ……」

鼓「んぁっ……！　ま、待ってください……抜かないで……もう少しだけ、このままっ……」

鼓「恵さんが、私の身体で気持ち良くなって……私の中に出してくれた精液……」

鼓「おまんこに染み込むまで、おちんちんでフタをしてほしいんです……ダメ、ですか……？」

鼓「あっ……ありがとうございます……ん、んんっ……」

鼓「ん、はぁっ……おちんちんがビクンビクン脈を打つのが、直に伝わってきます……」

鼓「この感触……今のうちに、たっぷり味わっておかないと……ですよね」

鼓「んん……ありがとうございました……もう、大丈夫ですよ」

鼓「んぁっ……はっ、はぁ……や、ダメっ……こぼれちゃう……」

鼓「お願い……ちゃんと、中に入ってて……一滴残らず、おまんこでごくごくしたいです……」

鼓「はぁ……はっ、はぁ……あっ……恵さんのおちんちん……また、汚れちゃいましたね……」

鼓「お口でお掃除は……え？　やめておいた方がいい、ですか？」

鼓「そう、ですよね……また、元気になっちゃったら……恵さんが辛いですもんね」

鼓「あ、あの……恵さん……最後にまた、ひとつだけお願いしてもいいですか……？」

鼓「その……私に、耳掃除をさせてもらえませんか……？」

鼓「わ、私、これでもお姉さんなので……それで、その……」

鼓「お近づきの印に、というか……親交の証というか……たくさんエッチをしてもらったお礼がしたくて……」

鼓「え……ホントですか？　あ、ありがとうございます……！」

鼓「それじゃあ……私のここに、頭を乗せてください……♪」